

令和三年度 統一模試 中学二年夏期テスト (実施時間四十五分間)

国語

注意

- 1 問題用紙は六ページあり、これとは別に解答用紙が一枚あります。
- 2 監督者の指示に従って解答用紙を取り出し、番号と氏名を解答用紙及び問題用紙の決められた欄に記入しなさい。また、解答用紙の「QRコードシールをはる」と書かれたわくの中に、シールをはみ出さないようにしなさい。
- 3 監督者の「始め」の合図で始めなさい。
- 4 答えは、問題の指示に従ってすべて解答用紙の答えの欄に、はみ出さないように記入しなさい。
- 5 筆記用具は、HBかそれよりも濃いものを用い、文字がうすくならないように注意しなさい。
- 6 監督者の「やめ」の合図ですぐにやめなさい。

氏 名	
-----	--

次の文章を読んで、あとの1～4の問いに答えなさい。

〔(一)～(十二)は段落番号を示す。〕

本棚を見ればその人がわかる、と言われることがある。その人自身の考えを直接聞くよりも、読んできた本のラインナップを眺めさせてもらえば、およその見当がつく。友達を見ればその人がわかるといったことと同じような意味だ。

(一)

自分の本棚を持つのは楽しい。自分の世界が広がっていく様子が手5
に取るようにわかるからだ。音楽に関しては、好きな音楽CDが自分の棚に並んでいく喜びは、多くの若い人が知っている。

a 現在、

自分の本棚を持っていない人も多い。ここで本棚としてイメージしているのは、横が一メートルほどで、縦が六段ほど入る本棚のことだ。一家四人であれば、少なくとも四つの大きな本棚が各人用にあつてし10
かるべきだ。

(二)

自分の今まで読んできた本が見渡せるというのは、非常な喜びだ。過去の自分と現在の自分が、そこでは繋がり合っている。自分の本棚には、自分が過ごしてきた読書の時間が詰め込まれている。優れた著者との出会いが、これまでの自分の人生が有意義であつたことを、自15
分に知らせてくれる。

(三)

優れた著者の本を読んでいるときの自分は、自分でも肯定しやすい。自分を肯定する自己肯定感、自分自身に向き合うときよりも、何か素晴らしいものに向かっているときに感じやすい。好きな音楽を聴いているときの自分を好きだというのも、自己肯定感の一つではある。20
しかし、読書の場合は、自分がより積極的にエネルギーをかけなければいけない行為だ。そうして出会えた人物との時間は、苦勞して得た

ものだけに、自分でも充実感がある。

(四)

本は単数よりも複数の方が威力が増す。私は高校生の頃、自分のベツ
ツドの枕元の棚に本が一冊ずつ増えていくのを見るのが好きだった。その頃は、まだ本棚に至る前の段階だった。ブックエンドに一冊ずつ挟んでいくのだ。当時は、本は読みきらなければいけないものと思つていたので、読み切った充実感が一冊一冊に詰め込まれていって、眺めていたといとおしくなった。

(五)

本来は過ぎ去って跡形もなく消え去ってってしまう砂のような時間、しつかりと本という形でそこに凝縮されて残っている。その安定感がうれしかった。

(六)

本は、本の連鎖を生む。一冊読むと次に読みたくなる本が出てくる。それが読書のおもしろさだ。たとえば高校時代に私は、夏目漱石の『三四郎』を読んだ。すると、三四郎に続いて、三部作といわれる『それから』と『門』を読みたくなった。主人公の名前は違っているのだが、どこか連続性を感じられる。

(七)

小林秀雄はかつて、全集を読むことを勧めていた。トルストイならトルストイの全集を読んでもみると、いいものも悪いものもある。しかし、それらを全部含めて読んでみたときに、トルストイという人間の全体が自分の中に入ってくる。文は人なりというのはそういう意味だ、といったような意味の文章であつた。

(八)

同じ著者の本を何冊も読んでみると、無駄も多いようにも思うが、実はその著者を深く自分の中に引き入れる良い方法となっている。顔をいろいろな角度から写真に撮ってみた方が、一つの角度よりは実際の顔のイメージに近づく。本の場合も、何冊かを読むことによって、

著者の人格や考え方が染み込んでくる。そうすると、本を読むという行為は、恩師の話を聴くようなイメージとなる。(九)

自分の尊敬する著者がいいと薦めている本は、読みたくなるものだ。まったく縁もゆかりもない本を読むのはつらい。しかし、自分が好きな本の中に出てきた本は、すでに縁ができていく。たとえば、好きになった坂口安吾が小林秀雄や太宰治について書いてあると、ついその二人の本も読みたくなってくる。(十)

一人の著者がきっかけで、本の網の目がどんどん広がっていく。関心も微妙にずれて広がりを持つていく。これが世界観の形成に役立つ。55 一人の著者だけを偏愛しているのでは、世界観の形成には限界がある。

うまぐずらしながら増幅させていくのが、自分をつくる読書のコツだ。(十二)

(齋藤孝「読書力」による)

(注) ラインナップⅡここでは、作品や著者などの顔ぶれ。

ブックエンドⅡ本が倒れないようにその両端に置いて支えとするもの。

小林秀雄Ⅱ日本の文芸評論家。

トルストイⅡ『戦争と平和』などを書いたロシアの小説家。

坂口安吾Ⅱ日本の小説家。

偏愛Ⅱある人やものだけを偏って愛すること。

1 本文中の a にあてはまる語として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア しかし イ それとも ウ では エ だから

2 筆者は、自分の本棚を持つことや読書をするについて、音楽

を引き合いに出しながら自分の考えを述べている。次の文は、その中で筆者が述べた「読書をする」と音楽を聴くことの共通点と異なる点」についてまとめたものである。 I には五字で、

II には二十五字で本文中から最も適当な言葉を抜き出して書き、文を完成させよ。

読書をする」と音楽を聴くことは I を得られる点で共通しているが、読書をするのが II 行為であるという点では音楽を聴くこととは異なる。

3 (五)・(六) 段落には、共通する表現上の特徴があり、(五)・(六)

段落の内容を把握する上で効果をあげている。共通する表現上の特徴とその効果を説明したものととして最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 誰もが経験する例を取り上げることと親近感が増している。

イ 学んだ知識を根拠とすることで説得力が高まっている。

ウ 人以外のものを人に見立てて表すことで印象強くなっている。

エ 心情を率直に述べることで主張が理解しやすくなっている。

4 次の文は、——線部「うまぐずらしながら増幅させていく」とは、具体的にどのようなことを表しているのかを説明したものである。 に三十五字以内の言葉を補い、文を完成させよ。

世界観の形成に役立つように、 こと。

次の文章を読んで、あとの1～5の問いに答えなさい。

大学を卒業して一年、米作りをして生きていくことを決意したゆきは、苦勞の末、新しい品種の試験栽培に取り組めることになった。四月、米作りのベテランである祖父とともに、種籾まき（種子として、殻のついたままの米をまくこと）の作業を始める。

ゆきは頭到手ぬぐいを巻き、祖父の隣に並んだ。

「そんなに気合入れねくつても大丈夫だ」よっぽど鼻息が荒かったのだろう、祖父は苦笑しながらゆきの肩をぽんぽんと叩いた。

種まき機に、最初は種籾ではなく土を入れる。機械の下側には、ゴム製のベルトが二本並んでいて、そのレールの上に、苗床になる薄っぺらいプラスチックの箱を置く。電源を入れるとレールが流れるように動きだし、機械から吐き出された土が均一に箱の上に撒かれる仕組みだ。

ぐうんという低い音が響き、箱がレールの上を流れていく。右から左へ流れる間に、一定の厚さで土が撒かれていった。ゆきは機械の端で待機し、流れてくる箱を落とさないようにキャッチするのを担当した。受け取った箱は、傍らにどんどん積み重ねていく。ゆきを囲む苗床の要塞ができてくる。

次はいよいよ種籾だ。土を敷いた箱を、再びレールの上に乗せる。今度は機械の中に種籾を入れ、さつきと同じことを繰り返す。流れるレールの上で、種籾は均等に撒かれていく。多すぎても少なすぎてもいけない。祖父は様子を見て機械を調整し種籾の量を加減する。それでも隙間が空いてしまった場所には直接手で種籾を補充した。一度も機械を止めずに、三つも四つもの動作を流れの中でこなしていく。くるくるとしなやかに動く祖父の姿は、踊っているようだ。

① 見事だった。

ゆきは驚いた。落ち着いているのに、素早い。軽い。無駄がない。

20

こっちは単に流れてくる箱をキャッチしているだけなのに、バタバタと落ち着きがなく無駄な動きばかりだ。

「ああっ」「どうした？」祖父は機械を止めた。

「……じいちゃん、ごめん」せっかく綺麗に積んである箱に、振り返りざまにぶつかっただけで、一部がぐちゃぐちゃになっていた。

「ちよっと早いけど、一服するが。ゆき、ばあちゃんにお茶淹れてもらうべ」

祖父は、崩れた土をそつと手でならしながら言った。そして種籾を一つかみ掴んで、上からパラパラと振った。機械でやるよりきれいなぐらいに整った。

「ほれ、良い塩梅になったべ。昔は機械なんてねえがったんだ」

こんなの、どうということでもないんだよ、そんな顔の祖父がいた。ゆきは頷くだけだった。

縁側に腰掛けて、祖母の淹れてくれたお茶を啜る。おやつは干し芋を炙ったものだった。

「あんた、半日もしねえのに、もうぐったりしてるねえ」

祖母の意地悪な視線を無視し、ゆきは天を仰ぐ。

……凄いなあ、敵わないなあ、かつこいいなあ。

自分は今まで、何を見てきたんだろう。祖父の働く姿は、これまでだって沢山見てきたはずだった。でも今日の祖父は格別だ。② 同じ土俵に立つてみて、初めて見えてくるものがある。

できることなら、後学のためにメモを取ったり、写真を撮ったりしたかった。だが実際は、とてもそんな余裕はない。種まき機から次々に流れてくる箱を受け取るだけで精一杯、一箱受け取るごとに神経がすり減っていくのが自分でも分かった。

「おめが緊張したら、種籾まで緊張するべ」「え、なにそれ」「おめが適当にしたら、種籾まで適当になるしな。④ 作物つてのは、そういうもんだ」

50

25

40

35

45

ゆきは心の中を見透かされた気がして慌てた。だったら自分はどうかしたらよいのだろうか。

「田んぼ、でぎるごになつて、嬉しういが？」「うん」「新しい品種、作ってみるの、楽しみだが？」「もちろん」「土の間が芽が出て、緑色の苗がびっちり生えてきて、それを田んぼさ植えて……どげだ？」「うん、わくわくする」「ほしたら、その気持ちのまま作業すればいいんだ」

ゆきの胸に、春の風がふんわりと吹き込んだ。話を聞いていた祖母も、につこりしている。

「経験を積んだ人の言葉は、やっぱり凄いなあ。深いよ」「経験なんてまだまだ。じいちゃんは、たったの五〇回ぐらいしか米作ったごど、ないがらなあ」

……やられた。やっぱり敵わないや。

ゆきは、お茶を飲み干し立ち上がった。この人が生きているうちに、一つでも多くのことを学ばなくちゃ。一つでも多くのことを盗まなくちゃ。いつか、一人で農作業する日がくるのかもしれない。自分でできるだろうか。一瞬よぎった不安を打ち消すように、ゆきは手ぬぐいを巻き直した。

(あべ美佳「雪まんま」による。一部省略等がある。)

(注) 苗床Ⅱ米や野菜などの苗を育てる場所。この場面では、プラスチックの箱がそれにあたる。

1 線部①「見事だった」とあるが、次の表は、ゆきが感じた、自分と祖父との仕事ぶりの違いをまとめたものである。に最も適当な四字の擬態語を、本文中から抜き出して書け。

祖父	素早い。軽い。無駄がない。↓「 」
ゆき	落ち着きがない。無駄がある。↓「バタバタ」

2 線部②「同じ土俵に立ってみて、初めて見えてくるものがある」とあるが、ゆきに「初めて見えてきたもの」とは何か。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 種籾まきの作業を毎年続けてきた祖父の勤勉さ。

イ 種籾まきの作業を的確に行う祖父の手際のよさ。

ウ 種籾まきをゆきに教えこもうとする祖父の情熱。

エ 種籾まきの由来を深く知っている祖父の博識さ。

3 線部③「神経がすり減っていく」とあるが、これと対照的なゆきの心境が、比喩を使つて表現されている一文を、——線部③よりあとから抜き出し、最初の五字を書け。

4 線部④「作物つてのは、そういうもんだ」とあるが、作物はどういうものだか祖父は言っているのか。「気持ち」という語を用いて二十字以内で書け。

5 次の文は、——線部「ゆきは頭に手ぬぐいを巻き」と、——線部「ゆきは手ぬぐいを巻き直した」という行動描写に着目し、そこから読み取れるゆきの心情についてまとめたものである。

Ⅱに適切な言葉を補い、文を完成させよ。ただし、Ⅰは二十字以内で書き、Ⅱはあとの選択肢から最も適当なものを選び、記号で答えること。

「ゆきは頭に手ぬぐいを巻き」にはⅠが表れており、「ゆきは手ぬぐいを巻き直した」にはⅡが表れている。

【Ⅱの選択肢】

ア 今後ますます祖父と農作業をしたいと願う気持ち

イ 今後の作業は不安なくできるぞという気持ち

ウ 今後の見通しがもてていない自分を励ます気持ち

エ 今後は苗の成長を楽しみにしようという気持ち

3

次の文章を読んで、あとの1～3の問いに答えなさい。

唐の太宗の時、異国より千里の馬を献ず。帝、これを得て、喜ばず

(太宗皇帝)

(ある人が異国から献上した)

して、みづから謂へらく、「たとひ、我独り、千里の馬に乗りて、千里

(思うことは)

を行くとも、随ふ臣なくんば、その詮なきなり」。故に魏徴を召して、

(部下)

(詮がない)

(お呼びになつて)

これを問ひ給へば、徴が云はく、「帝の心と同じ」と。依りて、かの馬

(言うことには)

(それで)

に金帛を負せて、返さしむ。今云はく、帝、なほ、身の用ならぬ物を

(黄金と絹織物を背負わせて、献上した人にお返しになられた)

(今ここに言ふことは)

(やはり)

ば持たずして、これを還す。

(注) 千里の馬Ⅱ一日に千里(非常に遠い距離のたとえ)を走りぬく名馬。

魏徴Ⅱ太宗皇帝に仕えた役人。

(「正法眼蔵随聞記」による)

1 ———線部②「問ひ給へば」を現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書け。

2 次の文は、——線部①「喜ばずして」について、帝がどのように

考える理由を説明したものである。Ⅰには十字程度、Ⅱには十字以内の言葉を補い、文を完成させよ。

たとえ自分だけがⅠとしても、自分のⅡことができなければ、無意味だから。

3 本文において、「千里の馬」はどのようなものか。本文中から七字で抜き出して書け。

4 次の——線部のカタカナは漢字に直し、漢字は仮名に直して書きなさい。

1 ボウサイ訓練を行う。

2 トウウの価格が変動する。

3 決勝戦でヤブれる。

4 布をサイダンする。

5 薄情な人。

6 はけで掃く。

7 エスカレーターで昇降する。

8 農家から集荷された野菜。

5

次は、ある中学校の図書委員会に寄せられた要望と図書だよりに掲載する回答である。読んで、あとの1～4の問いに答えなさい。

【図書委員会への要望】

毎日昼休みに開室している図書室を、昼休みだけではなく、放課後にも開室してもらいたいです。一日二回開室することで、^①本を借りる人が増えると思います。

【図書委員会からの回答】

委員会では、「放課後なら、給食当番も借りやすい。」という意見が出た一方で、「部活動があり、集まるのが難しい。」などの意見が出され、毎日の放課後に開室するのは無理であるということになりました。

しかし、本を借りたいという声には応えたいということで、委員会の顧問の先生と相談し、毎週水曜日は、放課後にも図書室を開室することにしました。

1 ——— 線部①の単語数を書け。

2 ——— 線部②「借」の部首と組み合わせたとき、常用漢字にならないものの一つを選び、記号で答えよ。

ア 直 イ 主 ウ 共 エ 守

3

【図書委員会からの回答】の書き方の特徴を説明したものとして最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 感想を述べてから、事実を説明している。
イ 事実を説明してから、感想を述べている。

ウ 経過を説明してから、結論を述べている。
エ 結論を述べてから、経過を説明している。

4 【図書委員会からの回答】に見出しをつけて図書だよりに掲載することにした。次の見出しの□□にあてはまる言葉を十五字以内で書け。

□□ という要望について

6

文化庁が行った「国語に関する世論調査」によると、「文字を手書きする習慣をこれからの時代も大切にすべきであると思うか」という質問に対して、調査対象の約九十二％が「大切にすべきであると思う」と答えています。そこで、国語の時間に「手書きの習慣をこれからの時代も大切にすべきかどうか」という題で、意見文を書くことになりました。あなたの意見文を、あとの(1)～(3)の条件に従って書きなさい。

条件

(1) 題は書かず、二段落構成で、六行以上八行以下で書くこと。

(2) 第一段落には、手書きの習慣を大切にすべきかどうかということに対するあなたの考えを書き、第二段落には、そのように考える理由を、手書きに関する体験や見聞を含めて書くこと。

(3) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。

